

TO講習会レポート（東濃地区：IZUMI LEXCESS）

1 目的

- (1) TOの役割の重要性を理解するとともに、正しい知識と技術を習得する。
- (2) TO主任に当たる指導者の役割を再確認し、TO技術の向上を図る。

2 場所

- (1) 土岐市立泉小学校 会議室
- (2) 土岐市立西陵中学校 体育館

3 対象

IZUMI LEXCESS に所属する選手7名と指導者1名

4 内容

(1) 講義形式と動画による映像研修

- ① (一社) 山口県バスケットボール協会 TO 委員会監修「テーブルオフィシャルズメカニクス」による講義研修
 - ・TOクルー各担当の役割と任務
 - ・ミスの起こりやすいポイントの解説
 - ・コミュニケーションのポイント
 - ・準備物：(一社) 山口県バスケットボール協会 TO 委員会監修「テーブルオフィシャルズメカニクス」

②映像を用いた実技研修

- ・使用した映像：Wリーグプレーオフファイナル（ENEOS対トヨタ自動車）
- ・第1Q：スコアラーの実技
- ・第2Q：タイマーの実技
- ・第3Q：ショットクロックオペレーターの実技
- ・試合終了後のスコアラーの処理
- ・準備物：DVD、DVDプレーヤー、スコアシート、タイマー操作盤（画像を印刷した用紙）、ショットクロック操作盤（画像を印刷した用紙）

(2) 土岐瑞浪ブロック公式戦での実践

- ・スコアラーとアシスタントスコアラーの連携
- ・審判とスコアラーの連携
- ・タイマーとショットクロックオペレーターの声出しと連携
- ・審判とタイマー、ショットクロックオペレーターの連携
- ・試合終了後のスコアラーの処理

5 会場図



6 振り返り

○誰もがどの役割でも

チームでTOの役割が果たせるよう、誰もがどの役割でも任務を遂行できるように講習会を行った。そのため、座学の後、映像のクォーターごとに役割を変え、全員がスコアラー、タイマー、ショットクロックオペレーターの実技を行った。動画の1試合が終わるまでに、3役の実技を行うことができるということが分かった。

○講習を受けた選手の声

- ・ショットクロック10秒前からカウントダウンを入れることで、表示盤を目で追わなくてもプレーを確認しながらブザーを鳴らすかどうかの操作をすることができることが分かった。
- ・交代で出てきた人の「×」はスタートメンバーと同じように全て黒で書いていたけど、出てきたクォーターで使っている色で書くことを初めて知った。
- ・スコアラーは審判ともコミュニケーションを図っていくことが大切で、特にファウルレポートに対して、復唱するとよいことが分かった。
- ・一人一人が声を掛け合うことで、一人なら起こるかもしれないミスを防ぐことができるということが分かったので、これからも気を付けていきたい。
- ・「声を出すこと」はオフィシャルでも試合でも大切なのだと気付いた。

○その他

年度をまたぎ、体育館が使えない日に実施した。そのため、本来試合で使用する機材が使えなかったため、今回は操作盤の画像を印刷した用紙を使用した。「県内のどのチームでも、映像が見られて、机一つあれば講習を行うことができる。」という提案になれば、と願っている。

今回は東濃地区の実践を紹介させていただきます。経験値として、座学講習で選手が気付いたことは、実際の試合で生かされていくことと思います。

令和3年5月現在、再び活動が制限されています。活動が再開されたとき、1つ1つの試合が、これまでも増して「貴重な1試合」になるのではないのでしょうか。その試合を支えるテーブルオフィシャルズの大切さは、ぜひ委員会としてもお伝えしていきたいと考えています。

まだまだ我慢しなければならぬ時が続きます。「今できること」を考え、実践していただければと思います。今後とも、宜しく願いいたします。